北部ヴェトナム平地農村住宅の空間構成に関する研究

北部ヴェトナム, キン族の農村住宅の研究 その1

A STUDY ON THE SPACE COMPOSITION OF THE PLAIN FARM VILLAGE'S HOUSE
IN NORTHERN VIETNAM

A study on the farm village's housing of the Kin race in northern Vietnam No. 1

齋藤輝二*, 永野義紀**

Teruji SAITOU and Yoshinori NAGANO

The purpose of this paper is to clear the space composition of the plain farm village's house of the KIN race(VIET race) in northern VIETNAM. They are composed of a main building, attached building, a courtyard which is called SUN, a kitchen garden which is called VUON and a pond. A typical type of space composition of the site is L shape of which a main building and an attached building enclose SUN and adding VUON. And there are some other types. The typical type of main building is composed of a wide room which is called KHONG KHACH and a bed room which is called BUONG. For a long time the traditional one story house has been built, but at present time two or three stories houses appeared and are increasing.

Keywords: NORTHERN VIETNAM KIN RACE(VIET RACE) PLAIN FARM VILLAGE HOUSE SPACE COMPOSITION
北部ヴェトナム キン族(ヴェトナム族) 平地農村 住宅 空間構成

1. 研究の背景と本研究の目的

(1)研究の背景

ヴェトナムの国民の87%を占めるキン族(ヴェトナム人)の農村住宅の研究は少ない。ヴェトナムの伝統的建築の研究では Dr. NGUYEN KHAC TUNGの研究「NHA CHA CAC DAN TOC O TRUNG DU BAC BO VIET NAM 1978年(中部ヴェトナム北部の各民族のすまい)」(注1)とDr. NGUYEN SI QUEヴェトナム建設大学教授の「TIME HIEU LICH SU KIEN TRUC VIET NAME 1992(北部ヴェトナム農村の伝統的建築 1992年)」(注2)があげられる。前者は中部ヴェトナムの主として少数民族の住宅研究で、キン族の住宅も簡単な平面図と外観図で2例紹介されている。後者は北部ヴェトナムの伝統的農村住宅の研究としては最も成果が高い。日本の民家研究に該当し、主として100年以上前に建築された保存状態のよい住宅の平面構成や構造等が詳細に調査されている。L型配置、コ型配置、3室構成の住宅について紹介している。最も参考になるが、旧家が対象であり、一般的農村住宅や1945年以後の現代農村の住宅は研究対象としていない。日本人による研究も若干ある。少数民族の住宅研究では上田博之氏の研究(注3)があげられる。上田氏の農業政策から農村住宅の屋敷構成の理念型を紹介した小論(注4)もある。北部ヴェトナムの都市住宅研究では東京大学

曲淵英邦氏等の「ハノイ「36通り地区」の現地調査より」の高密度居住に関する研究等(注5)がある。興味深いのは友田博通昭和女子大教授らの「ベトナム・ハノイにおける都市住宅に関する研究」の一連の研究(注6)である。ペンシルビル型の住宅等、形態や生活の調査も詳細に行われている。ヴェトナムの農村の歴史学や地理学からの研究には蓄積がある。桜井由躬雄東大教授の「ヴェトナム村落社会の形成」(注7)はヴェトナム農村集落をXA(社)とTHON(村)の形態があることと、それらの社会形成の歴史的経過を紹介している。また、大西和彦氏はヴェトナムの宗教や家族の形態等の概要(注8)を紹介している。DAN PHUONG XAについては仲地宗俊琉球大学教授が本調査と同時期に農業経営の調査(注9)を行っている。

(2)本研究の目的

本研究はヴェトナムの87%を占めるキン族(ヴェトナム人)の北部ヴェトナムの現在の平地農村の住宅の空間構成とその変化過程を明らかにすることを目的としている。平地農村に代表的な空間構成の型が存在するのか、また、どのようなバリエーションが存在するのかを明らかにすることである。QUE教授の研究とは、現在の農村住宅を対象としていること、旧家と限定せず、調査対象区域の全階層の住宅を対象としていることが異なる。QUE教授

* 東和大学工学部建設工学科 教授・工博
** 東和大学工学部建設工学科 助教授

Prof., Dept. of Construction, Faculty of Engineering, Univ. of Tohwa, Dr. Eng.
Assoc. Prof., Dept. of Construction, Faculty of Engineering, Univ. of Tohwa

は住み方や生活行事の調査は行っていない。住み方、居住様式や空間の機能は以後の論文で明らかにしたい。

2、本調査の対象と調査方法

(1)調査地概要

調査は北部ヴェトナムの紅川デルタの2平地農村である。ハノイ市から30km北西に位置するHATAY省DAN PHUONG県DAN PHUONG XA DAI PHUNG 村およびハノイ市郊外のHANOI市GIARAM県TRA QUY XA CUU VIET村の2村である。DAI PHUNG村は土手と道路で囲まれた大集落DAN PHUONG XA の4村(THON)の内の最大の村で、456戸の戸数である。各村には1~2寺院があり、神社はXA全体で1社あり、集落外にある。DAI PHUNG村は1600年頃に建設されたという寺院がある伝統的な村である。建築密度は31.3戸/haと高密の集落である。80%が専業農業、15%が兼業労働者、5%が商工業等の自営業者で、いずれも兼業農家である。DAI PHUNG村は細街路を挟んで19TO(生産隊、他村のXOMに当たる)に区分されている。その中から古い寺院を囲むように4地区、112戸の悉皆調査を試みたが、留守や拒否もあり75戸、66.4%の実施率である。内5戸は平面図と立面図のみである。しかし、1TOに関しては84%調査できた。調査対象外の村内の最古の家及び新築住宅計2戸を参考として追加した。

CUU VIET村はTRA QUY XAの4つの独立した村の最大の村で、280戸がまとまった1集落となっている。1960年に湿地帯を干拓区画整理して作った新しい村で、建築密度12.6戸/haの低密度の集落である。14地区(予定XOM)からなり、入口から連続した4地区80戸の悉皆調査を試み、55戸、68.8%の実施となった。内、5戸は平面図と立面図のみである。同村内の調査対象外から新築住宅2戸を追加した。同村は90%が専業農家で10%が兼業農家のサラリーマンである。幼稚園や村の集会所はあるが、寺や神社はない。

(2)調査方法

調査は1995年に九州大学等5大学の農業経営学科合同の調査に同行し、ハノイ農業大学農業経済学教室の選定と紹介で上記2村の予備調査を行った。1996年には東和大学齋藤及び永野研究室合同の計12人と通訳兼補助員5名により本調査を行った。さらに、1999年齋藤がハノイ建設大学QUE教授等5名の建築の専門家の協力により追加調査を行った。3調査ともヴェトナム国家投資・計画省の農業経済専門官のBUI NGHI氏(九州大学大学院生)のコーディネートにより実施した。調査は各XAのコンミュン委員会のヒアリング調査の後、調査員と補助員計3名1組ずつが調査対象住宅の平面図、配置図、断面図の実測、増改築や居住様式(住み方)のヒアリング調査を行った。予備調査として外にバクタイ省、ハイフォン省、ホアビン省の1~2村を各々10~20戸の調査を行った。本調査および追加調査の前にQUE教授に教示頂き、これまでの研究のレビューを行った。

3、住宅の規模

(1)敷地の規模

DAI PHUNG村は平均敷地面積は226.8㎡、最も多い規模は150~199㎡で、過半数が200㎡未満であり、最大規模も550㎡未満である。

図1、調査地の位置

表1、調査住戸数

	DAI PHUNG村	CUU VIET村
総戸数	456戸	280戸
地区数	19TO	14XOM
調査地区数	4TO	4XOM
調査対象戸数	113戸	80戸
調査戸数	75戸+(2戸)	55戸+(2戸)
対村実施率	16.9%	20.4%
対対象実施率	66.4%	68.8%

注1: XOM 地区、TO 生産隊でXOMに対応する

注2: (2戸) 同村内で調査対象区域外の調査住戸

図2、DAI PHUONG XA 及びDAI PHUNG村の調査地の位置

図3、CUU VIET村の宅地割と調査地区

CUU VIET村は平均395.1 m²、半数以上が300m²以上である。また、CUU VIET村は600m²以上の大規模敷地が14%もある。新規開発されたCUU VIET村は伝統的なDAI PHUNG村より敷地規模が大である。CUU VIET村では敷地配分は、家族数および政治的貢献度に応じて配分したとのことで、規模の格差が大である。150m²未満の敷地は息子等に再分割したためである。

(2) 総床面積の規模

母屋と付属屋の床面積の合計を総床面積とする。平均総床面積はDAI PHUNG村は81.49m²、CUU VIET村は84.65m²と大きな差はない。最も多い規模はDAI PHUNG村では80-89m²、CUU VIET村では60-69m²である。CUU VIET村では130m²以上が10%もあり、29m²未満も4%あり、階層差がやや大である。

(3) 母屋の規模

母屋の平均床面積はDAI PHUNG村は43.39m²、CUU VIET村は50.65m²で、ややCUU VIET村が大である。最も多い規模はDAI PHUNG村は40-49m²、CUU VIET村は50-59m²である。第2番目に多い規模はDAI PHUNG村が50-59m²、CUU VIET村は49-50m²である。第3位はDAI PHUNG村は30-39m²、CUU VIET村は60-69m²である。CUU VIET村は半数が50m²以上である。DAI PHUNG村の方が規模の小さい母屋の割合が高い。両村とも階層差が大きい。

(4) 付属屋の規模

付属屋は炊事場、倉庫、家畜小屋および寝室である。付属屋の規模は両村の差は見られない。平均規模はDAI PHUNG村は32.42m²、CUU VIET村は33.56m²である。最も多い規模は20-29m²である。階層比較はCUU VIET村は80m²以上の大規模もみられるが、DAI PHUNG村の階層差と大差はない。

(5) 建ぺい率

建ぺい率は両村の差は大である。平均建蔽率は、DAI PHUNG村が41%、CUU VIET村は25%である。また、DAI PHUNG村は半数近い45%の家が40%以上の中高密度であるのに対し、CUU VIET村では74%の家が30%未満の低密度である。

(6) 居室数

平均居室数ではDAI PHUNG村は3.3室、CUU VIET村は2.3室と1室もDAI PHUNG村が多い。最多数は両村共2室で、60%と66%である。4室以上が若干ある。付属屋にも居室を設けている家があるためであり、母屋に4室以上の居室がある家はない。

表2、調査2村の住戸密度

		総面積	世帯数	総建築密度
DAN PHUONG	XA	63.122ha	1912戸	30.3戸/ha
DAI PHUNG	村	17.043ha	534戸	31.3戸/ha
CUU VIET	村	14.226ha	180戸	12.6戸/ha

注：総面積は周辺道路中心線内の面積

図4、代表的農家の敷地空間構成

図5、菜園及び池を持つ住宅モデルの空間の呼称

図6、住宅の規模1

4、住宅の空間構成

(1)敷地構成

住宅の敷地構成は図8に見るように、母屋(DICH TICH CHINH)とSANというレンガ敷きの前庭、付属屋(DICH TICH PHU)、菜園(VUON)及び池(AO)の要素空間の組み合わせにより構成されている。全てに共通する要素空間は、母屋+付属屋+SANであり、これをSとする。このSに菜園(VUON)が組合わさったものがSV、このSに菜園+池(AO)が組合わさったものをSVAとする。SANを囲んで敷地構成がいくつかの型系に分類できる。SANを囲んで母屋と付属屋がL形のものをL型系、コの字形のものをコ型系、母屋と付属屋がSANの後ろに並ぶものを一型系、SANを挟んで並行に並ぶものを二型系とする。これらに分類できない複雑なものをその他とする。この組み合わせと型系のマトリックス分類図が図8である。これらの分布を図9に示す。

両村ともL型系が最も多く、DAI PHUNG村およそ62%、CUU VIET村は78%に達する。コ型系はDAI PHUNG村は24%強あるが、CUU VIET村はわずかに2%である。一型系はDAI PHUNG村で7%強、CUU VIET村で6%である。二型系はDAI PHUNG村は4%強、CUU VIET村は10%である。L型系以外は数は少ないが両村とも一定数は見ることができる。最多の型はDAI PHUNG村はLSV型で、次いでLS型であり、CUU VIET村はLSVA型で、次いでLSV型である。これらが2村の代表的型といえる。政府は菜園(VUON)と魚を育てる池(AO CA)及び豚小屋(CHON LON)を自宅に設け収入を上げるVAC政策を勧めており、LSVA型等SVAは政策に合致しているが、敷地の狭いDAI PHUNG村では少ない。

敷地空間の構成要素として、上記以外に図4に見るようにほぼ全戸がSUNに雨水を貯水した天水水槽を備えている。また、1996年には見られなかった屋根付きの独立した便所やシャワー室が1999年度調査では数多くの家に見られる。位置は様々である。

(2)母屋の向き、方位

全ての住宅が平入りであり、母屋の入口側の方向を母屋の向きとする。図10に見る通り、DAI PHUNG村が60%以上、CUU VIET村が80%と両村とも最多が南東向きである。図2、図3及びCUU VIETの一部を図11に見る様に、両村とも主道が南東-北西軸となっており、南東を意識して計画を行っている。次いで多いのが南西向きである。道路に対して正面をむいている場合と、

図9、調査住宅の敷地型の構成

図10、調査住宅の向き

図7、住宅の規模2

図8、敷地の空間構成モデル

図11、CUU VIET村の住宅配置例

背を向けている場合である。北向きや北西向きは見られない。
DAI PHUNG村では新築の家が主道に向く北東向きが若干みられる。
QUE教授は、南東は風水で吉の方向であると説明している。

(3)母屋の間取り型

ほぼ全戸が母屋(DIE TICH CHINH)と炊事場(BEP)が別棟の分棟型である。母屋は、PHONG KHACHと呼ばれる広間とその前の底の下廊(THEN)、寝室(BUONG)の要素空間の組合せから構成されている。大部分の家がPHONG KHACHの前底下にTHENという廊を設けている点の一つの特徴であるが、THENの無い家も若干ある。

図12に見る通り母屋の間取りは平屋建て系とその他(2～3階建て)に2分できる。

平屋建て系はPHONG KHACHという中央に仏壇(BAN THO)を備えた広間1室と前廊といえるTHENで構成されているP型、それにBUONGが1室増加するP+1型、BUONG2室がPHONG KHACHを挟んで加わるP+2型およびTHENの無いP+1 THEN無し型に分類できる。

その他は2～3階建てで、PHONG KHACHの中に階段(梯子)が設けられているP階段付き型、P+1型のBUONGの前部を階段室としたP+1階段室型が、PHONG KHACHにアルコーブの階段およびKHO等を設けたP変形階段型がある。2階建てを予定して、階段室のみ2階としている疑似2階建てがあるが、P+1階段室型の間取りである。いずれも両村に1～2戸見られる。DAI PHUNG村には1階が作業所で2～3階が居室の高層の作業所併用住宅が出現しているが、まだ、釜屋分棟型である。

P+1型が両村とも最も多く、代表的な型といえよう。次いでP+2型が多い。P型およびP+1 THEN無し型も一定数見られる。

図12、住宅の母屋の平面型モデル

(4)母屋のしつらえ

母屋のしつらえは図14および図15に見るとおりである。
PHONG KHACH内部のしつらえは後部の壁の中央部に仏壇(BAN THO)が設けられている。DAI PHUNG村の旧家では須弥壇ともいえる立派な仏壇であるが、1970年以後およびCUU VIET村の全戸は螺鈿で装飾された食器棚の上に香炉や生花、水、写真等を置きBAN THOにしている。DAI PHUNG村では主としてBAN THOに向かって右側(北東)の壁の上部にTHO COMG(土地の神)が祭られている。家によっては左側の場合もある。CUU VIET村ではTHO COMGを祭っている家は1戸もない。BAN THOの前には木製のテーブルと椅子4脚が置かれ、接客の場になっている。大部分の家が木製の飾りのないベッドが両隅または片隅に置かれている。家具はタンスやテレビを置いている家もある。

BUONGは窓が1～2カ所の暗い部屋(暗)で、木製のベッドやタンスが置かれ、洗濯物や衣服が吊されている。自転車や穀物カ

図13、調査住宅の母屋の平面型構成

図14、1900年代の住宅の室内と界壁の例

図15、1970年代以後の住宅の室内の例

ンを置いている家も見られる。2階のBUONGはどの家も明るく、木製ベッドやタンスが置かれ、勉強机を置いている家もある。

(5) 仏壇および土地の神

両村は仏教信仰で、全ての家が前記のように母屋のPHONG KHACHにBAN THOを備えている。BAN THOは図16に見る通り2種類あり、前記のように時代によって異なる。

DAI PHUNG村はほぼ全戸土地の神(THO COMG)を祭っている。THO COMGは3種類見られた。大部分の家ではPHONG KHACHの妻側の壁の上部に棚を設け、THO COMGを祭っている。香炉を中央に生花や水等を供えるだけで簡単である。DAI PHUNG村の4%強の家がおよそ60×60×120cm(高さ)の白い厨子形のTHO COMGをSANの南東側に祭っている。村の旧家の1戸のみSANの南東側の盆栽に、土地の神の祭日に臨時に祭っている。新開発のCUU VIET村ではBAN THO一つで全ての事を祈ってしまうのことで、THO COMGを祭っている家は1戸も見られなかった。

(5) 付属屋

付属屋は図17に見るように1棟型、2棟型、3棟以上の3棟型に大別できる。両村共1棟型が60%以上で最も多い。2棟型はDAI PHUNG村27%強、CUU VIET村20%である。3棟型は少なく、DAI PHUNG村5.7%、CUU VIET村16%である。

付属屋はBEP(炊事場)、KHO(倉庫)およびCHON LON (C.L:豚小屋)の組合せである。家畜小屋はCHON GA(鶏小屋)やCHON BA(牛小屋)もあるが、牛小屋は1例ずつのみでありC.Lに分類した。最も多い型は両村ともBEP+C.Lである。次いでBEP+KHO+C.Lである。BEP+KHOが両村とも3位である。付属屋にBUONG(寝室)を設けている家もわずかに見られる。母屋以外に客室としてPHONG KHACH+BEPの家が1例見られた。要素空間の種類は少ないが多様である。

5. 母屋の空間構成の変化過程

両村とも門の正面に建築年が大きく表示されており、一目で建築年が分かる。DAI PHUNG村は1870年代～1900年建築された家が3戸あり、DAI PHUNG村で母屋の空間構成の変化過程を見ることにする。

1870年～1900年は3戸の内2戸はP+2型で1戸は旧地主である。他の1戸はP+1型である。P+2型2戸は間取りや構造、しつらは類似しているが、旧地主の家が維持状況がよく、変化過程のモデルになる。図14および図20、DAI PHUNG①に見るようにレンガの外壁、内部の界壁は木造、須弥壇式のBAN THO、THENには海老束、小屋組は木造で彫刻の入った四半弧の斜め梁、外部との堺に板張りの目隠し壁がある。P+1型の間取りの家も構造や室内のしつらは同じである。これに似た構造やBAN THOの家は1970年代初めの家にも見られる。便所やシャワーは近年増築した。1900年代～1930年代の家は見られなかった。

1945年代の家は1戸で同②に見るようにP+1型の母屋に別棟が壁を共有している。レンガ造で、小屋組も彫刻のない束立て(まぐさ構造)であるがTHENの底は丸柱に海老束である。内部は須弥壇式の名残の柱が立っており、当初は須弥壇式のBAN THOであった。CHON LONは後に増築した。

1950年代から1990年代は2階建て以外はP型、P+1型、P+2型がどの年代にも存在している。1950年代に変化のある家が出

図16. 調査地の拝所 (仏壇と土地の神)

1-1: BEP 1-2: KHO 1-3: BEP+C.L. 1-4: BEP+KHO 1-5: BEP+KHO+C.L.
 1-6: BUONG+BEP+KHO+C.L. 2-1: BEP+KHO/C.L. 2-2: BUONG/BEP+C.L.
 2-3: BEP+BUONG/C.L. 2-4: BEP/C.L. +C.G. 2-5: BEP/KHO+C.L.
 2-6: BEP+C.L./KHO 2-7: BUONG+BEP+C.L./GEST. R. 2-8: BEP/KHO
 2-9: PHON KHACH+BEP/BEP+C.L. 3-1: BEP+KHO/BUONG+KHO/C.L.+C.G.
 3-2: BEP+KHO/BEP+KHO+C.L./C.L. 3-3: BEP/KHO/C.L. 他: 2 母屋
 C.L.: 豚小屋 C.G.: 鶏舎 注: 小規模鶏小屋は除く

図17. 調査住宅の付属屋の分類

図18. 調査住宅の建築年代別構成

図19. 調査住宅の階数の構成

現している。図20、DAI PHUNG③は母屋の前のTHENが無いP+1 THEN無し型が出現した。以後、THENの無い家が数は少ないが建てられている。

DAI PHUNG④は内部の界壁はレンガ造で、内部に柱は無く食器棚式のBAN THOの形式である。以後、P+1型も図17に見るとおり同じ構造やしつらいで、1960年代～80年代の主流の形式となっている。

1982年に最初の2階建てが出現する。⑤に見る通りPHONG KHACHの中に梯子を設けたP内階段付き型で、2階はBUONGになっており、バルコニーが付いている。

1990年代は大きく変化する。1994年に狭い敷地にアーチ窓のあるペンシルビルの様な⑥のP変形階段室型の家が出現した。⑦に見るように1997年にBUONGの前が階段室に変わっているP+1階段室型が出現し、以後の2階建てや疑似2階建てに多い。⑦は階段室にBEPを併設している。炊事場が母屋の内部に設けられ、分棟が変質した点が注目される。

便所やシャワー室が新築時より設けられるようになったのは1990年代になってからである。1982年建築の⑤の家も便所やシャワー室は近年に増築されたものである。図12⑧の1階作業所併用住宅は1999年に建築され、3階建てで、釜屋(BEP)と便所・洗面・シャワー室が2階に設けられているが、分棟の形式である。1990年代は2～3建ての高層化および都市住宅風化の時代といえる。全戸、相続により宅地が分割され、狭い敷地になった家であり、若い世帯である。

CUU VIET村は1964年に最初の住宅が建築され、以後の変化過程はDAI PHUNG村と類似している。

6. まとめ

異なる地域の、永い歴史のある伝統的な村と新開発の村の住宅の空間構成は大部分の点で類似しており、差異はわずかな点である。従って本研究は以下の諸点で今日の北部ヴェトナムの平地農村の住宅の空間構成を明らかにできたといえる。

QUE教授の伝統的民家調査と一致するのは以下の点である。

- 1、ハノイを中心とする北部ヴェトナムの伝統的住宅の空間構成や室内意匠、構造と一致しているのは1800年代末期の住宅ある。それに類似した住宅は1970年代前半まで継承されている。母屋の空間構成がPHONG KHACH、BUONおよびTHENで構成され、室内は木造の界壁と小室組の形式で、伝統的といえる。
- 2、ほぼ全戸、母屋と釜屋が別棟の分棟の形式である。代表的な型系は庭(SAN)を母屋と付属屋がL字形に囲むL型系であるが、全体ではL型系の母屋+付属屋+SAN+菜園のLSV型が最も多く、代表的型といえる。CUU VIET村ではそれに池が付加されたLSVA型が最も多い。
- 3、住宅の主たる向きは南東向きである。

図20、DAI PHUNG村の住宅の変化過程

以下は本研究のオリジナルな解明点である。

- 1、住宅は伝統的村も1960年代に新開発された村も、敷地規模および母屋の規模にも階層差がある。
 - 2、住宅の敷地は母屋、付属屋、庭(SAN)が全ての住宅に共通し、基本要素空間といえる。基本要素空間のみの住宅もある。
 - 3、基本要素空間がL形に並ぶL型系が最も多いが、コ形、一列および二列に並び、それに菜園や池が付加するコ型系、一型系、二型系も一定数ある。
 - 4、母屋の向きは最大は南東向きであるが、南西向きもあり、近年北東向きも出現した。
 - 5、平屋建てが大部分で、母屋の空間構成はPHONG KHACHという広間1室とTHEN(前廊)から成るP型と、それにBUONGが1室付加するP+1型と2室付加するP+2型、THENの無いP+1 THEN無し型がある。最多はP+1型で、次いでP+2型で、代表的型といえる。2階建てが出現し、平面型は変化しつつある。
 - 6、PHONG KHACHは開口部の多い明るい広間(明)で、全戸BAN THO(仏壇)が置かれている。DAI PHUNG村では全戸土地の神(THO COMG)が祭られているが、CUU VIET村では祭っている家はない。内部には木製のテーブルとイスやベッドが置かれている。
 - 7、BUONGは窓が0～2の暗い部屋(暗)で、ベッドやタンス等数少ない家具や、自転車や米カンが置かれている。
 - 8、付属屋は炊事場(BEP)と倉庫(KHO)、豚小屋(CHON LON)の主要要素空間から成っており、これらの組合せにより種々の型がある。最も多い構成は1棟の中に炊事場+豚小屋で、次いで炊事場+倉庫+豚小屋である。
 - 9、住宅の変化は1950年代および1990年代に大きな変化が見られる。前者は第二次世界大戦後、後者は改革開放経済の実施後である。1980年代までは平屋建ての伝統的プランであるが、室内の構造やしつらえ、THENの無い家の出現などの変化が見られる。1980年代に2階建てが出現し、1990年代に増加し、伝統的平面構成が変化しつつある。形態も塔状になり、便所やシャワー室が設けられるようになった。
- 以上のように、北部ヴェトナムの平地農村の住宅の空間構成の代表的型は、敷地構成ではL型系およびその系のLSV型、母屋の空間構成ではP+1型とP+2型といえよう。
- 今後の課題として、これらの住宅の居住様式(住み方)および、各空間の機能と性格の解明を行いたい。

注

- 注1: NHA CHA CAC DAN TOC O TRUNG DU BAC BO VIETNAM.
Dr. NGUYEN KHAC TRUNG 著 NHA XUAT BAN KHOA HOC XA HOI 1978年
- 注2: TIME HIEU LICH SU KIEN TRUC VIETNAM.
Dr. NGO HUY QUE 博士論文 1992年
- 注3: 1室型住居の空間分節からみたベトナム・白タイ族の伝統的住居の空間構成 上田博之 日本建築学会計画系論文 NO. 501
1997.11 p139-144
- 注4: ベトナムの農業システム(VAC)の概要 ベトナム少数民族の研究 #4 上田博之 日本建築学会大会学術講演梗概集E-2
1996年

注5: 都市の高密度居住の形式に関する研究 その1・ハノイ「36通り地区」の現地調査より 曲渕英 邦 日本建築学会大会学術講演梗概集F-1 1997年
ハノイ・36通り地区の地域特性に関する基礎的研究 辻鈴子他 日本建築学会大会学術講演梗概集F-1 1997年

注6: ベトナム・ハノイにおける都市住宅に関する研究その1～3
石井希 友田博通他 日本建築学会 大会学術講演梗概集E-2 1998年、同 その4～6 花田俊廣 友田博通他 日本建築学会大会学術講演梗概集E-2 1999年

注7: ベトナム村落社会の形成 桜井由躬雄著 創文社 昭和62年

注8: 「宗教と祭祀」大西和彦著 もっと知りたいベトナム
桜井由躬雄編著 弘文堂 平成7年 p219-238

注9: ベトナムにおける集団農場解体後農地の保有と利用の構造—紅河デルタの事例— 仲地宗俊 1997年度日本農業経済学会論文集

参考資料

- 1、東南アジア世界の形成 石井米雄 他編著 ビジネス世界の歴史12 講談社 1990年
- 2、地球の歩き方 ベトナム ダイアモンド社 1984年
- 3、ベトナムホアンの町並み保存に関する調査研究その9～12 久布白兼昭 友田博通他 日本建築学会大会学術講演梗概集F-1 1996年
- 4、ベトナム・ハノイ近郊農村への日系企業の工場進出と土地収容 筒井一伸 農村計画学会誌 1999年12月 18巻3号

あとがき・謝辞

本研究は九州大学や東京大学等5大学農業経営学科の合同ベトナム調査団の長憲二九州大学名誉教授より同行のお誘いを受け実施できた。ハノイ農業大学農業経済学科の教授方の調査地選定、BUI NGHI ヴェトナム投資・国家計画委員会専門官及びの岩元泉現鹿児島大学教授のコーディネートにより実施できた。本調査に協力頂いたQUEハノイ建設大学教授を始め調査地のXA委員及び居住者の皆様の協力と甲本有紀、川上智恵子、清水和香奈、橋本佳子、梶本雅弘、黒柳和宜、花宮卯、吉良貴司、小畑新一、下谷雅史君等本学学生の協力による。記して感謝したい。

(2000年7月10日原稿受理, 2001年3月22日採用決定)